

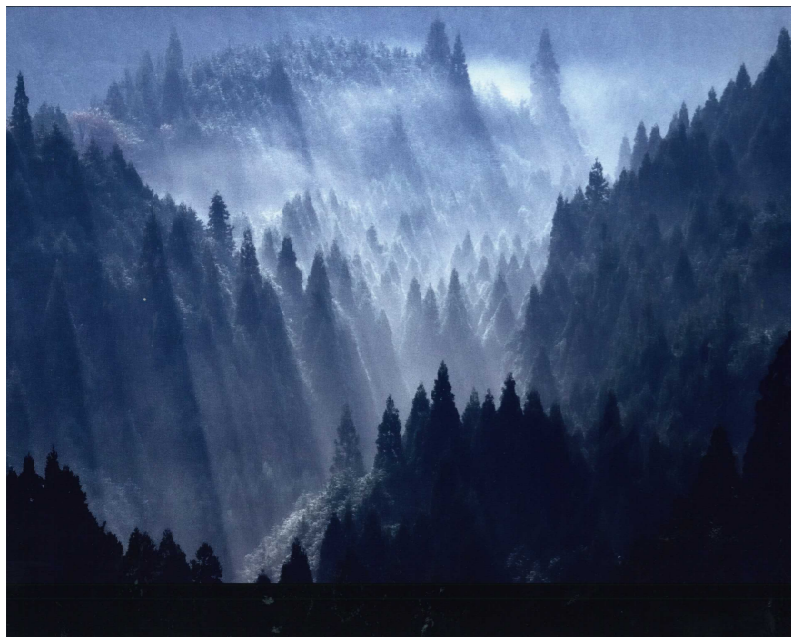
市長賞



作品名 冬陽射す
作者 山本 正二郎
作者のコメント

この山あいにある茶畑は、霜よけの扇風機もなく、言葉では表わし切れない美しい形状をしています。
特に刈り込みされた寒さの厳しい冬には、茶葉一枚一枚に霜が付き、花が咲いたようになります。
そんな茶畑に、太陽が射し込むと、その美しさは一層際立ちます。
その瞬間を狙って撮影しました。

京田辺市教育委員会賞



作品名 光芒
作者 向平 尚武
作者のコメント

朝夕の冷え込みがきつくなって来た12月中旬、前線が日本列島を東へ抜け、前日の雨から快晴の朝を迎えた。
前線の通過に伴って寒気が流れ込み、一段と冷え込んだ朝となり、和東・宇治田原の山間部に霧が発生し杉林に流れ込んで来た。
光芒が見えだした。
日差しが強くなるのに伴い霧も多くなり、くっきりとした光芒となり最高の瞬間を写しとめる事が出来た。

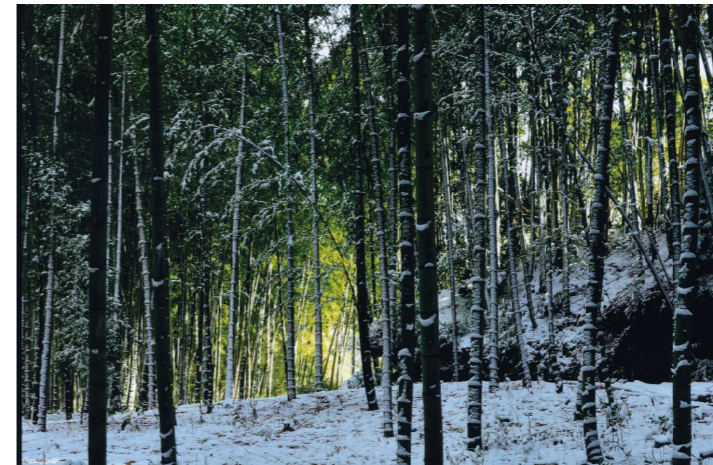
京田辺市芸術家協会賞



作品名 初冬里山
作者 伊藤 園彦
作者のコメント

甘南備山を望む薪の里は豊かな自然を求めて訪れる人々に人気のオアシスです。
その里山にも年に数回は雪が降り、残り柿とのコラボで幻想的な初冬の姿に一変します。
ことしの1月15日はそんな条件が重なり急いでかけつけた時の貴重な一枚です。
しばらくすると雪は止んでしまいました。。。。。

京田辺市文化協会賞



作品名 雪の竹林
作者 町田 譲
作者のコメント

京田辺市は竹林がたくさんあります。四季折々写真を撮っておりますが、その竹林に小雪が降ると幻想的でよりいっそう美しくなります。
一年の内で何度か雪が降りますが、すぐ解けてしまいます。
雪が積った時は、シャッターチャンスそんな雪降る朝を待つて撮った作品です。

審査員の講評

写真は楽しむことが基本です。
地元の方が地域の風景に目を向け、凝視しシャッターを切る。
そこにその時季(とき)の物語が生まれ、そして発表することによって集うことが出来る。
又、鑑賞者が魅せられ作品との対話が始まる。とても大事なことだと思います。
今回は第1回目と云うこともあって応募点数がやや少ない乍らもどこに出しても劣ることのないレベルの高い作品の数々に出会うことが出来ました。

山本 一